

SSH指定・酒東高と山大農 教育連携協定を締結



鶴岡市の山形大農学部(村山秀樹学部長)と酒田市の酒田東高校(大山慎一校長、生徒550人)が22日、教

育連携に関する協定を締結した。酒田東高が本年度、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指

定を受けたことから、これまでの連携をさらに強化し、酒田東高側は探究型学習への支援など教育的資源の拡大、農学協定書を披露する村山学部長(左)と大山校長

部側は地元からの進学者増加など、双方のメリットにつなげていく。

酒田東高では2019年度から探究科の「課題研究」の成果発表に山大農学部の留学生を招き、英語で交流するなど連携。今回は同学部側から働き掛けた。県内高校との連携協定は、山形大として2019年2月に山形東、米沢興譲館、東桜学館と締結したほか、農学部としては庄内農業、新庄神室産業、村山産業、置賜農業、上山明新館、左沢に続くもので、農学部単独でSSH指定校と締結するのは初。酒田東高が地元高等教育機関と連携協定を結ぶのは、東北公益文科大に続き2例目。

協定の内容は①高校における探究型学習や高度な知的体験を伴う学習への支援②大学における学生教育への連携・支援③大学教員の出張講義、大学施設・設備の使用④国際感覚の醸成やグローバルな人材育成を目的とした事業への連携・支援など6項目。

この日、山大農学部で行われた協定締結式では大山校長と村山学部長が協定書に署名。大山校長はあいさつで「探究科の教育プログラム構築に挑戦する中、生徒が大学の高度な知的資源にアクセスするなど高等教育機関と連携する必要性が高まっている。連携は本校の新しい挑戦に計り知れない意義と可能性を与えてくれる」と期待を語った。村山学部長は「大学レベルの教育研究に触れる機会を求める生徒の希望に応えたい」として、大学側の連携メリットとして▽東北で2番目に大きな総合大学・山大の魅力伝える▽食料、環境、エネルギーなど地球規模の課題に向き合う農学部の魅力を伝える▽県内からの進学率(今春入学者14・5%)と県内への就職率(今春卒業生16・7%)の向上などを挙げた。